

病床機能別の集計結果の概要

(単位:床)

構想区域	医療機能	令和4年 (2022年) (7月1日現在)	令和5年 (2023年) (7月1日現在)	※ 【参考】	【参考】
		病床機能報告 (最大使用病床数) B	病床機能報告 (最大使用病床数) B	増減 B-A	平成37年 (2025年) 地域医療構想 における 必要病床数 C
中北	高度急性期	736	704	△ 32	403
	急性期	1,753	1,771	18	1,353
	回復期	777	690	△ 87	1,227
	慢性期	1,312	1,296	△ 16	1,161
	計	4,578	4,461	△ 117	4,144
峡東	高度急性期	0	0	0	48
	急性期	503	498	△ 5	279
	回復期	876	872	△ 4	978
	慢性期	363	341	△ 22	419
	計	1,742	1,711	△ 31	1,724
峡南	高度急性期	0	0	0	0
	急性期	251	314	63	78
	回復期	35	0	△ 35	102
	慢性期	136	105	△ 31	83
	計	422	419	△ 3	263
富士・東部	高度急性期	14	14	0	84
	急性期	611	624	13	318
	回復期	179	188	9	259
	慢性期	81	76	△ 5	117
	計	885	902	17	778
総計	高度急性期	750	718	△ 32	535
	急性期	3,118	3,207	89	2,028
	回復期	1,867	1,750	△ 117	2,566
	慢性期	1,892	1,818	△ 74	1,780
	計	7,627	7,493	△ 134	6,909

➤ 医療機能を未選択の病床は含まず。

※ 時点の異なる病床機能報告の数値については、以下の点から、単純に比較すべき性質のものではないと考えられるため、「増減」は「参考」扱いとする。

・ 医療機能の区分の基準は定性的なものであり、あくまでも医療機関の自主的な判断によるものであること。